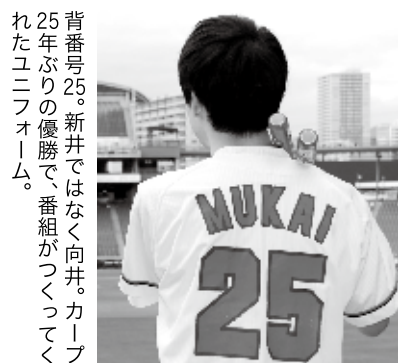
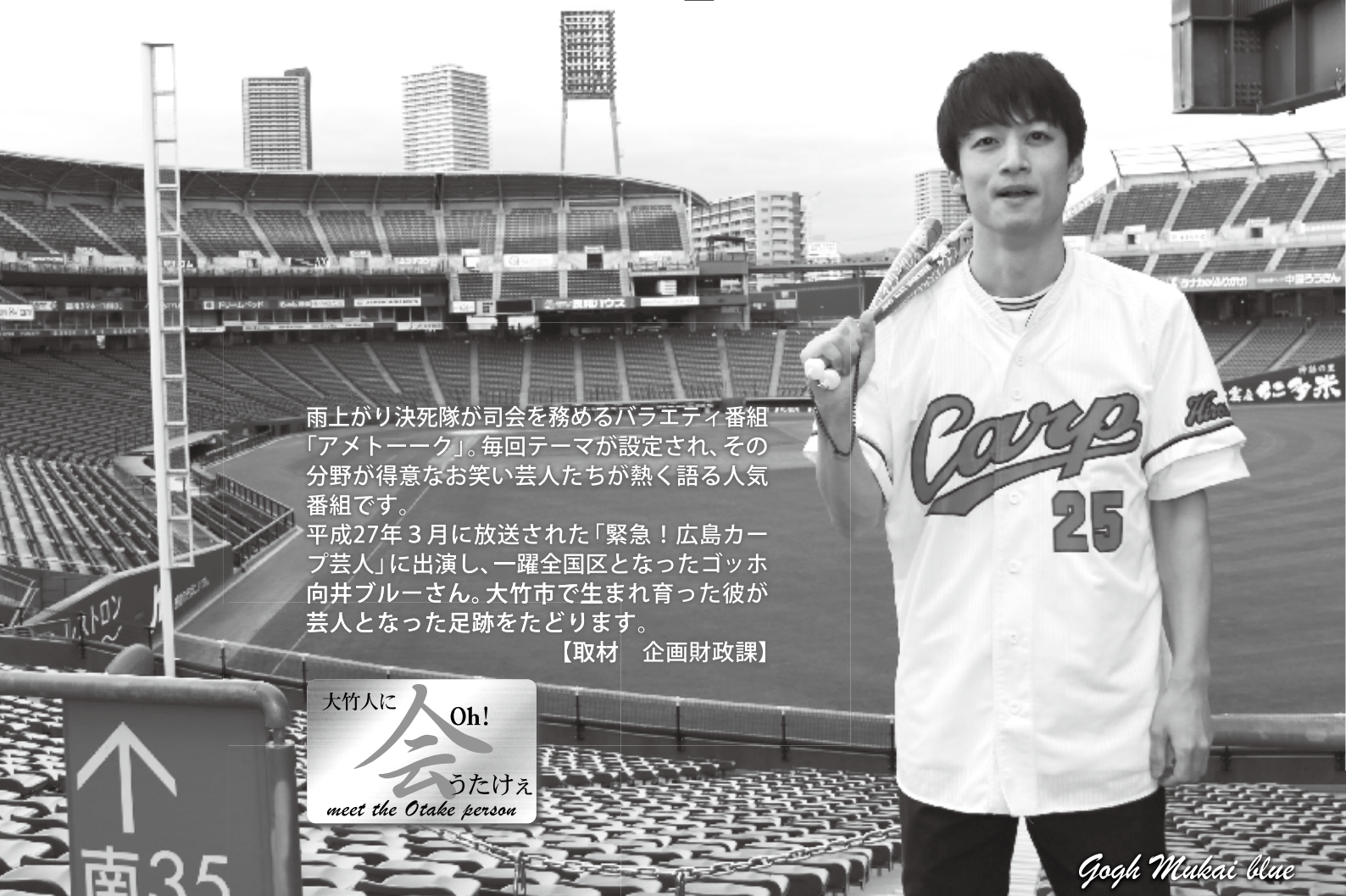




背番号25。新井ではなく向井。カープ25年ぶりの優勝で、番組がつくったユニフォーム。

カープ芸人への土壌
—生まれはどちらですか—
国立病院です。今は西医療センターですね。
—あ、いや大竹のどこの地区だったんですか—
ああ、玖波です。小方に住んでいましたが、小学校に入學する前に玖波に引っ越ししました。3人兄弟の真ん中です。
—子どものころ、やっぱり野球はやっていましたか—
どちらかと言えばインドア派でした。野球ゲームはよくやりましたよ。野球観戦は好きで、親によく旧市民球場に連れて行ってもらいました。それに、由宇の球場や大野の練習場にも通っていました。当時は練習場の中で見学もできたので、黒田投手や佐々岡投手、新井選手など、みんなからサインをもらいましたね。

「謙虚に冒険」芸人ゴッホ向井ブルーの できるまで——



雨上がり決死隊が司会を務めるバラエティ番組「アメトーク」。毎回テーマが設定され、その分野が得意なお笑い芸人たちが熱く語る人気番組です。
平成27年3月に放送された「緊急！広島カープ芸人」に出演し、一躍全国区となったゴッホ向井ブルーさん。大竹市で生まれ育った彼が芸人となった足跡をたどります。

【取材 企画財政課】

大竹人に
Oh!
会
うたけえ
meet the Otake person

Gogh Mukai blue

M1挫折が契機に
—お笑い芸人になろうと思っ
たきっかけは何でしょう—
高校1年生のとき、アマチュアも出られるというので、漫才コンクールの「M1グランプリ」の予選に、友達を誘ってエントリーしました。お笑いを目指すとかじゃなくて、文化祭気分くらいの軽い気持ちで行ったのですが、相手の友達が来ません。電話もつながらないしメールも返信がない。あきらめて出場辞退して帰ろうとしたとき、その日の司会だった、へびいちごさんが僕を追いかけきて、「ぎりぎりまで待つから、友達に連絡してみ」と言ってくれました。でも結局友達はいませんでした。すると「かわいそうやから舞台に立ってみるか」とへびいちごさんが一緒に舞台に上げてくれたんです。「今回はあかんかったけど、お笑いのこと嫌いにならんとってや。君がお笑いが好きやったら、おれら待ってるから、またチャレンジしてや」と励ましてくれました。
—その言葉刺さりますね—
(次ページにつづく)

市政功労者を表彰

12月12日、市政の発展に尽力された方に市政功労章を贈り、功績をたたえました。

黒田 孝士さん
(79歳 玖波5)

市監査委員として12年務め、市政の発展に貢献

森本 傳さん
(88歳 油見3)

市国民健康保険運営協議会会長として18年務め、市政の発展に貢献



叙勲 瑞宝双光章

佐々木 恒實さん (88歳 西栄1)

学校教育の発展に貢献された功績

体育功労者表彰

長年にわたり体育の振興、地域体育の充実や発展に寄与された方を、体育功労者として表彰しました。

体育功労者

大竹地区

松本 鶴男さん (白石2)

三上 博敏さん (油見1)

小方地区

後藤 正弘さん (晴海1)

広瀬 武雄さん (立戸4)

玖波地区

下川 恵敬さん (玖波6)

竹下 正博さん (玖波5)

木野地区

小田 保さん (木野2)

栗谷地区

中村 久雄さん (小栗林)

広報おおたけ

2019 January No.1218



“おおたけ”PRキャラクター コイちゃん

1

CONTENTS

- 02 市長・議長新年ごあいさつ
- 04 市政功労者表彰 / 叙勲 / 体育功労者表彰
- 05 「謙虚に冒険」芸人ゴッホ向井ブルーの
できるまで—
- 08 税の申告 Part1 申告準備編
- 10 税の申告 Part2 便利な申告編 / 障害者控
除・医療費控除
- 11 国保と後期高齢者医療保険の医療費通知 /
手洗い講習会 / 文化祭入賞者 / 市役所ギャ
ラリー

- 12 学校選択制の申請状況 / 就学援助制度
- 13 食生活改善推進員の活動
- 14 消防出初式 / たこあげ大会
- 15 バス運行を変更 / たこづくり教室
- 16 みんなで考えよう公共交通「アンケート
結果」
- 18 カメラスケッチ
- 20 幸せ感に関するアンケート結果 / おおた
けごみ事情
- 21 ランニングマシン・エアロバイク更新
- 22 節目歯科健診 / 高額医療・高額介護合算
制度
- 23 まだ間に合います。集団健診
- 24 成人のつどい / 国際交流の夕べ
- 25 消費者シリーズ / 年金のはなし
- 26 としょかん日より
- 27 情報ステーション
- 35 勤労青少年ホーム / 休日診療 / 休日水道修理
- 36 はじめまして / けんみん文化祭最優秀賞 /
おおたけカキ水産まつり

ゴッホ向井ブルー
平成2年大竹市生まれ、28歳。広島東洋カープの大ファン。往年のカープ選手たちをネタにした芸が特徴。「アメトーーク」のカープ芸人、定時制高校芸人に出演。現在、広島ホームテレビ「みみよりライブ5up!」月曜レギュラー。芸名は語呂がいいからと先輩芸人から名づけられた。古いカープ関連雑誌の収集が趣味。ツイッター、インスタグラムも要チェック。

自称「大竹観光大使」です(笑)

起死回生アメトーーク！

――転機が訪れたんですね――
25歳の誕生日の前、突然知らない番号の電話がかかってきました。「アメトーーク」のスタッフさんからで、今度カープ芸人の企画があるので、話を聞かせて欲しいというものでした。打ち合わせに行って、1時間熱くカープ愛を語りました。そうしたら1週間後、出演が決まったんです。ずっと頑張ってたカープのネタをやって来て良かった――時代もカープ女子などが注目され、いいタイミングでしたね。番組の反響は？――
もう本番中から携帯電話が鳴りっぱなしでした。ベタな話ですが、よく知らない人からも「向井寛えとるか」って笑。100件以上の着信がありました。――恐るべし全国ネット――
広島では視聴率20%だったそうですから。その出演のおかげで広島でも東京でも新しい仕事にチャレンジさせていただけになりました。――今後カープに頑張ってもらわないといけないですね――カープのことが好きで応援していたことが、まさかこんなに自分の人生とリンクしてくるとは思いませんでした。



18歳のとき漫才で、呼ばれた成人式の舞台。このときはNON STYLEの前座を務めた。

東京目指して

中学受験して高校もそのまま上がり、やりたいことも無かったんですが、そんな素敵な先輩のいるお笑いの世界に入ってみたいと思い、その日の内に「やりたいことが見つかったのでやらせて欲しい」と親に言いました。すると「この若さでやりたいことを見つけることは難しい。すごいことだから一生懸命やってみなさい」と許してくれたんです。――ご両親すごいです――

即決で許してくれました。もし自分が親だったら「考え直せ」と言うと思いますよ。親にはずつと感謝しています。それで高校をやめて定時制高校に編入しました。でも、親に迷惑をかけられないと思い、昼間はファーストフード店でバイトをして、東京へ行く資金を貯めました。――芸人になるためにどうしたのですか――

吉本興業の養成所に1年間通いました。同期は千人以上いましたね。ただ、卒業したからといって芸人になれるものではないですね。食べていくためには働かないといけないので、広島風お好み焼き屋さんなどで、バイトの生活です。

――芸人としてやっていくにはどうするんですか――

ただ待つているだけでは仕事は来ません。自分で結果を出すために、劇場でのピラミッド式のバトルライブなどで勝ち上がり、チャンスをつかむんです。週1回くらいのステージを重ねて鍛えられていきます。

――最初から1人でやっていましたか――

最初の2年くらいまで漫才コンビでした。でも、お客さんに受けないとだんだんと不仲になってしまつて。そのころ大竹市の成人式に呼んでもらうて出たことがあります。5回くらい出ました。自分のも入れると6回成人式に出ています(笑)

――そんな生活で行き詰まりましたはしないんですか――

さすがに24歳くらいになると地元の友達も就職し、このままではいけないと不安になってきました。何の保障もない生活ですから。だらだら続けるのが一番良くないと思います。25歳までに大きな仕事やテレビ番組に出ることを目標にしました。それができなかったらやめようと、もう必死でした。

広島に恩返しをしたい

――今後の目標は何ですか――

広島で「ゴッホ向井ブルー」の何々「みたいな冠番組ができたらいなと、ずっと思っています。僕が東京でやり続けるのは、売れている芸人の先輩たちの背中を見ることが、自分が成長できるのではないかと思うからです。少しでも全国で名前を知ってもらえたら、広島でお世話になつていくスタッフさんたちや街にも恩返しができるんじゃないかと。そのために今年の目標は「謙虚に冒険する」です。――ありがとうございました。これからのご活躍お祈りしています――



8月5日、アゼリアホールでの吉田沙保里さんのトークショーで司会を務めた。